

報告期間	ユーザー様名		SI名・指導者名
06年06月01日( )から 06年06月30日( ) まで	S社様		エプソンiソリューションズ 小池直之
製品の内容、製品種類数、製品の単価(最高・平均・最低など)			
印刷機関連部品			
生産形態、工程の要素			
組み立て	機械加工	板金	プレス
熱処理	実装、SMT	溶解	溶接
食品加工	プラスチック加工	化学薬品	塗装
印刷(除マニュアル等)・手書き	染色	エッチング	メッキ
			研磨
			鋳物
			鍛造
			接着
			皮、ゴム、紙加工
			織、編
			その他( )
指導種類	新規導入 バージョンアップ 再導入 その他( )		
今回指導回数	1回目(6月16日)		
TPiCSバージョン	3.1		
オプション・DB	受注販売、製番、一品 SQLSERVER		
出席者	M氏、Y氏		
今回の指導目的			
経緯：弊社セミナーにご出席頂き、その後数回説明を差し上げて導入決定頂いた。			
それまでは「T」パッケージを採用し個別製番発注機能を中心に行なっていた。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのシステムの老朽化、</li> <li>・足の長い部品への対応(現行手作業)</li> <li>・共通部品のMRP発注への可能性</li> <li>・顧客よりくるリピート品が仕向によってユニット構成がことなり、それによって必要部品もプラス・マイナスする</li> <li>・従来の縦割りによるデータの分散化 &gt; 統合システム化</li> <li>・そのための、必要なデータの収集</li> </ul>			
等ありTPiCSの製番機能及びF-MRPにより、			
課題の改善及び、TOTALシステム化への対応を図られる方針である。			
主な指導ポイント			
今回は、現状業務をヒアリングしDFD(データフローダイアグラム)A3用紙2枚にまとめた。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>システム間のデータの流れを示す図。データを発生・吸収・処理・蓄積するシステムの間を、データの流れを示す矢印で繋いで作成する。データの流れが明確になることによって、効率化しやすい場所を容易に見出せる等のメリットがある。</p> </div>			

経過（発言者と内容）
今までのヒアリングから
<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客からの部品構成が（ユニットの組み合わせにより）都度、異なることへの対応</li> <li>・機種別に製造計画～発注まで縦割りに行なっていることに対する業務運用方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・・・結果各自が発注し、注文数も多くなり問題となっている。</li> </ul> </li> <li>・部品の所在が明確に把握されていない</li> <li>・工程の実績データの収集（新社屋もでき、工場別個別採算も目指す）</li> <li>・実績収集、棚卸しへのハンディ等の活用</li> </ul>
等のニーズが上がってきている。
これらのT P i C Sを用いての改善をコンサルテーションしていく。

結 論					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回作成の現状業務のDFDにもとずき、問題点、課題を確認する（次回）</li> <li>・合わせて、S社内のプロジェクト化正式発足を行なう。</li> <li>・7月度Y氏、日立への研修会参加（8月M氏予定）</li> </ul>					
<b>検討事項・要回答事項・要継続審議事項</b>					
事項	正式プロジェクト化	担当部署	お客様	期限	8月
事項	研修会参加	担当部署	お客様	期限	8月、9月
次回開催日（予定）	次回開催場所(予定)	議事録作成日	議事録作成者		
7月25日	S社様	06年07月18日(月)	小池		